

9 講義要綱

(注) 担当者の職位は 2019 年 1 月時点のものです。

(1) 総合教育科目

哲学 (2 単位) 担当者: 文学部教授 上枝 美典・講師 植村 玄輝

2015 年度夏期スクーリング収録 (講義者: 文学部教授 上枝 美典・講師 植村 玄輝)

配信回数 全 11 回

■講義要綱

この講義では、西洋哲学の伝統的な問題の一例として、「神の存在証明」を取り上げる。講義の前半では、具体的に、3 種類の証明を取り上げて概説し、後半では、主としてカントの立場から、それら 3 種類の証明にたいして、批判を加える。

- [第 1 回] 宗教的議論の意味
- [第 2 回] 神の存在証明について
- [第 3 回] 宇宙論的証明
- [第 4 回] 目的論的証明
- [第 5 回] 存在論的証明
- [第 6 回] 信仰と理性
- [第 7 回] 批判哲学の狙いと基本的な枠組み
- [第 8 回] 神の存在論証の不可能性 (1): 存在論的論証の場合
- [第 9 回] 神の存在論証の不可能性 (2): 宇宙論的論証
- [第 10 回] 神の存在論証の不可能性 (3): 目的論的 (自然神学的) 論証
- [第 11 回] 理性信仰に関するカントの見解

■テキスト

指定しない。

■参考文献

上枝美典『「神」という謎 [第 2 版]』(世界思想社、2007 年)

イマヌエル・カント『純粋理性批判』・『実践理性批判』(これら 2 冊についてはいくつかの翻訳があるので、書店や図書館で試し読みをして、読みやすいと思ったものを選ぶのがよい)

『たんなる理性の限界内の宗教』(岩波書店、2000 年) (オンデマンド版 2017 年は同じ内容)

■課題 (レポート・小テスト) 提出

レポート 2 回と小テスト 2 回を実施。E-スクーリング所定の画面にて、4 月下旬と 5 月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- ・試験の結果による評価
- ・課題 (レポート) による評価
- ・小テストによる評価
- ・授業の視聴状況

政治学（2単位） 担当者：法学部教授 河野 武司

2016年度収録 配信回数 全20回

■講義要綱

様々な下位領域から成り立っている政治学の授業には、様々な切り口があるが、ここで講義する政治学では、現実の日本の政治を理解するために必要となる様々な知識や考え方を提供したいと考えている。特に焦点を当てるのは、政治システムの在り方に大きく影響を及ぼしている制度の問題である。全20回で1回あたりが60分前後の授業時間となる本科目で、具体的に取り上げる項目は、以下を予定している。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 政治とは何か

〔第3回〕 政治システム

〔第4回〕 伝統的政治学と現代政治学→規範的政治理論と実証的政治理論

〔第5回〕 現代政治学の父→G・ウォーラスとA・ベントレー

〔第6回〕 科学としての現代政治学→実証と理論化

〔第7回〕 現代政治学の展開①→行動主義、シカゴ学派

〔第8回〕 現代政治学の展開②→行動論政治学、脱行動論、政治哲学の復権、合理的選択アプローチ

〔第9回〕 哲人王と民主主義→プラトン、アリストテレス

〔第10回〕 現代の民主主義→J・シュンペータの競合的エリート民主主義

〔第11回〕 民主主義を計量化する→民主化、ポストデモクラシー、ポリアーキー

〔第12回〕 日本の民主主義

〔第13回〕 集合的意思決定の理論→多数決と全員一致

〔第14回〕 民主的意思決定は可能か→投票のパラドクスと一般不可能性定理

〔第15回〕 立憲主義と権力の分立による抑制と均衡①

〔第16回〕 立憲主義と権力の分立による抑制と均衡②

〔第17回〕 大統領制、半大統領制、議院内閣制

〔第18回〕 民主的選挙の5原則①→普通・平等

〔第19回〕 民主的選挙の5原則②→直接・秘密・自由

〔第20回〕 様々な選挙制度→小選挙区制、大選挙区制、比例代表制、混合システム

■テキスト 特に指定しない。

■参考文献 授業中に、適宜紹介する。

■課題（レポート・小テスト）提出 レポート1回、小テスト1回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬（レポート）と5月下旬（小テスト）に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法 試験（80%）とレポート（10%）、及び小テスト（10%）の成績を総合して評価する。

統計学（2単位） 担当者：経済学部准教授 秋山 裕

2016年度収録 配信回数 全12回

■講義要綱

統計学についての入門的講義。統計学の基本であるデータの記述、確率分布、推定と検定、回帰分析について扱う。本講義では、統計学の基本となる個々の事項を取り上げるが、全体として、統計学の考え方についての鳥瞰図について理解できるように、そして、個々の事項に関してエクセルを用いての分析にも対応できるようにすることを意図している。それを反映し、科目試験は、分布方法の考え方および分布結果の解釈に重点を置き、計算問題の出題は行わず、すべて記述（概念図の作図を含む）する形式とする。また、課題（レポート）は、講義内で解説するエクセルでの計算・作図を現実のデータを用いて行い、その結果について考察する形式とし、小テストは、講義内で解説する事項に関する確認テストとして五肢（あるいは四肢）択一式の出題形式とする。

- 〔第1回〕 データを記述する数値的尺度
- 〔第2回〕 データを記述する数値的尺度・図
- 〔第3回〕 度数分布表からの数値的尺度
- 〔第4回〕 確率・確率分布
- 〔第5回〕 二項分布
- 〔第6回〕 正規分布
- 〔第7回〕 中心極限定理
- 〔第8回〕 信頼区間の推定
- 〔第9回〕 仮説検定
- 〔第10回〕 相関分析
- 〔第11回〕 回帰分析・最小二乗法
- 〔第12回〕 回帰分析・推定と検定

■テキスト

必要に応じて、その都度教材を E-スクリーニングシステム内の授業ページに掲載します。

■参考文献

秋山裕『統計学』（通信テキスト、2015年）

■課題（レポート）提出

2回実施。E-スクリーニング所定の画面にて、4月下旬と5月上旬に課題と締切日をお知らせします。

■小テスト

2回実施。E-スクリーニング所定の画面にて、4月下旬と5月上旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- ・科目試験の結果による評価。
- ・課題（レポート）による評価。
- ・小テストによる評価
- ・授業の視聴状況。

■受講上の要望または受講上の前提条件

この科目を履修する前に事前に履修すべき科目はありません。講義では、Windows版のエクセルが用いられます。Mac版の場合はエクセル2016以降のバージョンならば、ほぼWindows版と操作は同じですので問題ありません。細部で異なる点は教材の中で示されます。

(2) 文学部専門教育科目

他学部共通開講科目の講義要綱は、開講学部のものをご参照してください。

【第1類に属する科目】

哲学特殊（2単位） 担当者：経済学部教授 穂刈 享 →p.28 「ゲーム理論」を参照

社会学特殊（2単位） 担当者：法学部教授 玉井 清 →p.30 「日本政治論」を参照

社会学特殊（2単位） 担当者：法学部教授 竹ノ下 弘久・講師 藤間 公太 →p.31を参照

法哲学（2単位） 担当者：法学部教授 大屋 雄裕 →p.32を参照

【第1・2・3類共通科目】

近代日本と福澤諭吉（2単位） 担当者：福澤研究センター教授 西澤 直子 →p.26を参照

第1類に属する科目

倫理学特殊（2単位） 担当者：文学部教授 柘植 尚則

2014年度夜間スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

経済は人間や社会に大きな影響を与えます。この講義では、経済における倫理的な問題について考え、人間や社会にとって望ましい経済のあり方を探ります。

〔第1回〕 経済倫理学とは	〔第7回〕 市場
〔第2回〕 経済倫理の歴史	〔第8回〕 経済体制
〔第3回〕 経済倫理学の歴史	〔第9回〕 福祉
〔第4回〕 経済倫理学の原理	〔第10回〕 環境
〔第5回〕 労働	〔第11回〕 消費
〔第6回〕 企業	〔第12回〕 経済、人間、社会

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載する。

■参考文献

柘植尚則『ブレップ経済倫理学』（弘文堂、2014年）ISBN978-4-335-15060-9

■課題（レポート・小テスト）提出

小テスト1回、レポート1回実施。E-スクーリング所定の画面にて4月下旬（小テスト）と5月中旬（レポート）に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- ・試験の結果による評価
- ・課題（レポート）による評価
- ・課題（小テスト）による評価
- ・授業の視聴状況

第2類に属する科目**西洋史概説（2単位） 担当者：文学部教授 神崎 忠昭****2018年度夏期スクーリング収録 配信回数 全11回****■講義要綱**

現代の私たちの生活はさまざまに西欧文明の影響を受けています。たとえば日常生活でよく触れる国民、適正金利、説明責任などの概念は西欧に由来し、特に中世に起源を有します。何気なく使っていますが、必ずしもその意味と、なぜ、どのように生じたのか、よく理解していないかもしれません。本講義では11世紀から近世初頭までのヨーロッパの歴史を概観し、その政治や社会、文化や宗教のあり方を考えることを目的とします。

〔第1回〕 イントロダクション：ローマの遺産・フランク・侵入

〔第2回〕 平和の確立と復興：帝国・教会・封建制

〔第3回〕 新しい宗教生活：クリュニー・シトー・十字軍

〔第4回〕 都市

〔第5回〕 キリスト教の浸透：異端・托鉢修道会・在家

〔第6回〕 国民国家：イングランド・フランス・ブルゴーニュ

〔第7回〕 中世後期の教会

〔第8回〕 隣人から一員に：中欧・北欧・イベリア・東方

〔第9回〕 衣食住と人の一生

〔第10回〕 宗教改革：人文主義・ルター・反宗教改革

〔第11回〕 近代へ：ルネサンス・大航海時代・科学

■テキスト

神崎忠昭『西洋史概説Ⅰ』（通信テキスト、2015年）

■課題（レポート・小テスト）提出

レポート1回と小テスト1回を実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせいたします。

■成績評価方法

試験、課題（レポート）、小テスト、および授業の視聴状況を考慮に入れて評価する。

第3類に属する科目

英語史（2単位） 担当者：文学部教授 堀田 隆一

2017年度夏期スクーリング収録 配信回数 全11回

■講義要綱

現代英語をよりよく理解すべく、英語にまつわる素朴な疑問を取り上げながら、英語の歴史を概説する。英語という言葉の特徴を理解するためには、それがたどってきた歴史を学ぶことが不可欠である。英語の起源はどこにあるのか、英語に見られる不規則性は何に由来するのか、英語は将来どうなっていくのか、などの問題に歴史的・通時的な視点からアプローチすることで、多面的な英語観・言語観を形成することが、本授業の目標である。

本授業で明らかになる現代英語に関する疑問点を数例挙げておく。

- ・英語はラテン語、フランス語、ドイツ語などどのような関係にあるのか
- ・なぜ SVO のように語順が固定しているのか
- ・なぜ name は「ナメ」ではなく「ネイム」と発音されるのか
- ・なぜアメリカ英語とイギリス英語は異なるのか
- ・なぜ英語は世界語となりえたのか

- [第1回] 現代英語の特徴
- [第2回] 外面史の流れ
- [第3回] 印欧語族からゲルマン語派へ
- [第4回] 古英語
- [第5回] 古英語から中英語へ
- [第6回] 中英語
- [第7回] フランス語の影響
- [第8回] 近代英語
- [第9回] アメリカ英語
- [第10回] 現代英語の言語変化
- [第11回] 英語の未来

■テキスト

堀田隆一『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』（研究社、2016年）

■参考文献

堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解—納得して英語を学ぶために』（中央大学出版部、2011年）

寺澤盾『英語の歴史—過去から未来への物語』（中央公論新社、2008年）

■課題（レポート・小テスト）提出

レポートを1回、小テストを1回実施する。E-スクーリング所定の画面にて、それぞれ4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

(1) 試験、(2) 授業の視聴状況、(3) レポート、(4) 小テストの4点により、総合的に評価する。

(3) 経済学部専門教育科目

他学部共通開講科目の講義要綱は、開講学部のものをご参照してください。

倫理学特殊（2単位） 担当者：文学部教授 柘植 尚則 →p. 21 を参照

西洋史概説（2単位） 担当者：神崎 忠昭 →p. 22 を参照

刑法（2単位） 担当者：法学部教授 佐藤 拓磨 →p. 29 を参照

日本政治論（2単位） 担当者：法学部教授 玉井 清 →p. 30 を参照

社会学特殊（2単位） 担当者：法学部教授 竹ノ下 弘久・講師 藤間 公太 →p. 31 を参照

法哲学（2単位） 担当者：法学部教授 大屋 雄裕 →p. 32 を参照

経済原論（2単位） 担当者：経済学部准教授 玉田 康成・講師 八尾 政行

2014年度夜間スクーリング収録 配信回数 全11回

■講義要綱

我々が直面している「経済」という現象に対し、実践的にその問題を解決するというのが経済学の役割として求められている。一方で、経済学には問題が発生する原因やその解決法を理論的に分析することも必要とされている。本講義は現代の経済学の理論研究について、その入門的内容を解説する事を目的としている。現代の経済学は経済の構成員の視点を基にしたミクロ経済学、経済全体を俯瞰する視点を基にしたマクロ経済学に大別される。ミクロ経済学、マクロ経済学は相補関係にあり、両方をよく理解することが重要である。第1回は総論的な、経済学全体についての概観を講義する。第2回から第7回まででミクロ経済学について触れる。第8回から第11回まではマクロ経済学を扱う。

- [第1回] 総論：経済理論とはなにか
- [第2回] 消費者理論（1）
- [第3回] 消費者理論（2）
- [第4回] 生産者理論
- [第5回] 均衡理論
- [第6回] パレート効率性と厚生経済学の基本定理
- [第7回] 市場の失敗と不完全競争市場
- [第8回] 経済の活動水準
- [第9回] 経済成長の概観と生産のモデル
- [第10回] ソローモデル(1)
- [第11回] ソローモデル(2)

■テキスト なし

■参考文献 講義中に挙げる。

■課題（レポート・小テスト）提出

レポートと小テストをそれぞれ1回行う。E-スクーリング所定の画面にて、レポートについては4月下旬、小テストについては5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

レポートと小テスト(10%)と試験(90%)により評価する。

経済学史（2単位） 担当者：経済学部教授 池田 幸弘

2015年度週末スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

経済思想史研究についての入門的講義。主として、イギリス古典派からカール・マルクスまでの経済思想を扱う。本講義では経済思想史を主題として扱ったかわら、経済学全体についての鳥瞰図、そして経済学の各分野の連関などについて一定の理解を与えることも意図している。できるだけ平易な講義を志したい。

- 〔第1回〕 経済思想史研究とは何か
- 〔第2回〕 スミスの分業論
- 〔第3回〕 スミスの自然価格論
- 〔第4回〕 スミスの資本蓄積論
- 〔第5回〕 マルサスの人口論
- 〔第6回〕 マルサスの農業保護論
- 〔第7回〕 リカードウの比較生産費説
- 〔第8回〕 過剰生産恐慌とは何か
- 〔第9回〕 J. S.ミルの自由論
- 〔第10回〕 初期マルクス入門：経済学・哲学草稿
- 〔第11回〕 初期マルクス入門：ドイツ・イデオロギー
- 〔第12回〕 社会主義とは何だったのか

■テキスト

必要に応じて、その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載します。

■参考文献

堂目卓生『アダム・スミス—『道徳感情論』と『国富論』の世界』〔中公新書〕（中央公論新社、2008年）

※紙媒体・「Kindle」とも利用可

廣松渉『今こそマルクスを読み返す』（講談社、1990年）

※Kindle版も利用可能

■受講上の要望または受講上の前提条件

総合教育科目としての「経済学」を履修していればなおよいが、それを受講の条件とはしない。

■課題（レポート・小テスト）提出

それぞれ1回ずつ実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に締切日・実施日をお知らせします。

■成績評価方法

- ・試験の結果による評価
- ・課題（レポート・小テスト）による評価
- ・授業の視聴状況

近代日本と福澤諭吉（2単位） 担当者：福澤研究センター教授 西澤 直子**2012年度収録 配信回数 全14回****■講義要綱**

福澤諭吉が日本の近代化に最も大きな刺激を与えた思想家の一人であることに異論を唱える者は少ない。しかしそれにもかかわらず、福澤が唱えた人間や社会の在り方は、その後の日本社会で必ずしも実現したわけではない。むしろ、その多くは未完のまま現代にまで残っている。福澤が提起した諸問題にどう答えるかは、実は現代のわれわれの課題と言ってもよい。

その福澤諭吉の人と思想を、本講義では多面的に考察する。近代において人間はいかなる存在であるべきか。この点は、福澤の家庭教育観や教育思想に強く現れている。近代精神の根本に自然科学的な知性を見ていたことも、福澤の近代人観を考える上で無視できない。また、社会を形成する原点として近世社会の変革は必須であり、新たな男女や家族の在り方など近代社会における人間の在るべき姿を説き続けた。

さらに、そのような人間観や社会観を基礎として、現実の政治に対しても発言をつづけた。あるいは、近代社会における法とは何かを示そうとした。人間が独立するための極めて重要な領域として経済についても論じた。また、経済活動の中心として近代経営を紹介し、経営の在るべき姿をも説いた。

本講義は、通信教育部経済学部の講義であるが、上記したように多領域にわたる福澤の思想を、経済をも含めて総合的に考察する。専門化が進み、時として知性の蝸壺に陥りかねない今日、本講義が諸科学や諸思想の関連性を認識する一助となることを願っている。

本講義は、経済学部に設置されるが、その内容は、文学部や法学部の学生諸君にも開かれたものである。

なお、講義は以下の章立てならびに担当者により進められる。

コーディネーター	小室正紀（経済学部名誉教授）
1. 総論：福澤諭吉の生涯と「独立自尊」	同 上
2. 福澤諭吉の士族観	西澤直子（福澤研究センター教授）
3. 福澤諭吉の女性論・家族論	同 上
4. 福澤諭吉の教育思想（1）	米山光儀（教職課程センター教授）
5. 福澤諭吉の教育思想（2）	同 上
6. 福澤諭吉の家庭教育	山内慶太（看護医療学部教授）
7. 福澤諭吉と自然科学	同 上
8. 福澤諭吉の内政論	都倉武之（福澤研究センター准教授）
9. 福澤諭吉の外交論	同 上
10. 福澤諭吉と法文化（1）	岩谷十郎（法学部教授）
11. 福澤諭吉と法文化（2）	同 上
12. 福澤諭吉の経済論	小室正紀（経済学部名誉教授）
13. 福澤諭吉の経営思想・近代企業論	平野 隆（商学部教授）
14. 福澤諭吉と福澤山脈の経営者	同 上

■使用テキスト

小室正紀編著『近代日本と福澤諭吉』慶應義塾大学出版会、2013年、本体2,400円＋税

■参考文献

（全章）『福澤諭吉著作集』慶應義塾大学出版会、2002～2003年

慶應義塾編『福澤諭吉事典』慶應義塾大学出版会、2010年

(第1章) 福澤諭吉『福翁自伝』(著作集・第12巻) 慶應義塾大学出版会、2003年

(第2章) 小川原正道著『福澤諭吉の政治思想』慶應義塾大学出版会、2012年

(第3章) 西澤直子『福澤諭吉と女性』慶應義塾大学出版会、2011年

(第4章)・(第5章)

山住正己編『福澤諭吉教育論集』岩波文庫、1991年

山住正己校注『日本近代思想大系6 教育の体系』岩波書店、1990年

(第6章) 渡辺徳三郎『福澤諭吉 家庭教育のすすめ』慶應義塾大学出版会、2010年

(第7章) 『東京人(特集「日本細菌学の父 北里柴三郎」)』2012年7月増刊

(第8章) 丸山真男『福澤諭吉の哲学』岩波書店、2001年

(第9章) 青木功一『福澤諭吉のアジア』慶應義塾大学出版会、2011年

(第10章)・(第11章)

安西敏三・岩谷十郎・森征一『福澤諭吉の法思想』慶應義塾大学出版会、2002年

(第12章) 藤原昭夫『福澤諭吉の日本経済論』日本経済評論社、1998年

(第13章) 福澤諭吉『民間経済録・実業論』(著作集・第6巻) 慶應義塾大学出版会、2003年

(第14章) 宮本又郎『企業家たちの挑戦』(日本の近代11) 中央公論社、1999年

■課題(レポート・小テスト)提出

レポート1回と小テスト1回を実施。E-スクーリングの所定の画面にて、レポートについては4月下旬、小テストについては5月下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- ・試験の結果による評価
- ・課題(レポート)による評価
- ・小テストの結果による評価
- ・授業の視聴状況

ゲーム理論（2単位） 担当者：経済学部教授 穂刈 享**2017年度収録 配信回数 全12回**

■講義要綱

この授業ではゲーム理論（非協力ゲーム）の基本的な考え方を学びます。

- 〔第1回〕 ゲームの表と「守られる口約束」としてのナッシュ均衡
- 〔第2回〕 ゲーム・ツリーにおける「戦略」と部分ゲーム完全均衡
- 〔第3回〕 赤いぼうしのパズルと possible worlds model
- 〔第4回〕 「情報集合」と合理的な「信念」
- 〔第5回〕 全く同じ製品を生産する2つの企業による数量競争
- 〔第6回〕 全く同じではないが代替的な製品を生産する2つの企業による価格競争
- 〔第7回〕 「囚人のジレンマ」と繰り返しゲーム
- 〔第8回〕 「フリーライダー問題」と繰り返しゲーム
- 〔第9回〕 参入阻止ゲーム
- 〔第10回〕 セカンド・プライス・オークション
- 〔第11回〕 ペア決めマッチング問題
- 〔第12回〕 まとめ

■テキスト

テキストは使用しません。

■参考文献

松井彰彦『高校生からのゲーム理論』（ちくまプリマー新書、2010年）

松島斉『ゲーム理論はアート』（日本評論社、2018年）

■課題（レポート）提出

1回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬に課題と締め切り日をお知らせします。

■小テスト

1回実施。5月下旬に実施します。

■成績評価方法

試験の結果による評価（60%）＋課題（レポート）による評価（20%）＋小テスト（20%）

(4) 法学部専門教育科目

他学部共通開講科目の講義要綱は、開講学部のものをご参照してください。

経済原論（2単位） 担当者：経済学部准教授 玉田 康成・講師 八尾 政行→p. 24 を参照

経済学史（2単位） 担当者：経済学部教授 池田 幸弘 →p. 25 を参照

近代日本と福澤諭吉（2単位） 担当者：福澤研究センター教授 西澤 直子 →p. 26 を参照

ゲーム理論（2単位） 担当者：経済学部教授 穂刈 享 →p. 28 を参照

刑法（2単位） 担当者：法学部教授 佐藤 拓磨

2017年度夏期スクーリング収録 配信回数 全11回

■講義要綱

刑法各論の中で最も重要な分野である財産犯と、独学の際に困難を感じるであろうと思われる文書偽造罪について、判例を中心に講義します。

- 〔第1回〕 財産犯総説
- 〔第2回〕 窃盗罪
- 〔第3回〕 強盗罪
- 〔第4回〕 強盗罪
- 〔第5回〕 詐欺罪
- 〔第6回〕 詐欺罪
- 〔第7回〕 詐欺罪
- 〔第8回〕 横領罪
- 〔第9回〕 背任罪
- 〔第10回〕 盗品関与罪、文書偽造罪
- 〔第11回〕 文書偽造罪

■テキスト

西田典之ほか『判例刑法各論〔第7版〕』（有斐閣、2018年）

※収録時は第6版を使用していたため、開講時に事件番号の新旧対照表をアップロードします。

■参考文献

井田良・佐藤拓磨『刑法各論〔第3版〕』（弘文堂、2017年）

■課題（レポート・小テスト）提出

レポート1回と小テスト1回を実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- ・試験の結果、課題（レポート・小テスト）および授業の視聴状況による総合評価。

日本政治論（2単位） 担当者：法学部教授 玉井 清

2014年度夜間スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

日本の政治を、政治過程、政治制度、政治思想、政治文化の観点から多角的に、過去から現代までに表出した種々の具体的事例を取り上げながら下記の項目に従い実証的に講義する予定である。

- 〔第1回〕 授業方針の解説—政治学研究の一環としての日本政治研究—
- 〔第2回〕 集団主義的思考、行動様式について（1）
- 〔第3回〕 集団主義的思考、行動様式について（2）
- 〔第4回〕 政治変動と思想的転換の特徴について
- 〔第5回〕 政治指導者の選出基準について
- 〔第6回〕 政治指導者選出過程の特徴について（1）—自民党総裁選を通じて—
- 〔第7回〕 政治指導者選出過程の特徴について（2）—自民党総裁選を通じて—
- 〔第8回〕 政治指導者選出過程の特徴について（3）—多数決より話し合い—
- 〔第9回〕 統治体制の特徴について（1）—祭り上げの構造について—
- 〔第10回〕 統治体制の特徴について（2）—祭り上げの構造と政治変動の関係について—
- 〔第11回〕 統治体制の特徴について（3）—統治者と被統治者の近接と融合—
- 〔第12回〕 総括

■テキスト

特になし

■参考文献（あくまでも参考で、必ずしも事前に読む必要はない）

- 北岡伸一『自民党』〔中公文庫〕（中央公論新社、2008年）
- 猪口孝・岩井奉信『「族議員」の研究』（日本経済新聞社、1987年）
- 早坂茂三『駕籠に乗る人担ぐ人』（集英社文庫、1994年）
- 中村菊男『政治文化論』（講談社学術文庫、1985年）

■課題（小テスト・レポート）提出

E-スクーリング所定の画面にて、小テストは5月上旬までに、レポートは5月中旬までに、課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- ・試験の結果による評価（50%）
- ・小テスト（1回 15%）とレポート（1回 25%）
- ・授業の視聴状況（10%）

以上の合計により総合評価する。

社会学特殊（2単位） 担当者：法学部教授 竹ノ下 弘久・講師 藤間 公太

2018年度収録 配信回数 全12回

■講義要綱

本授業では、社会学のなかでも、授業担当者の専門領域である社会階層論を中心に、授業を行う。前半では、社会階層論の基本的な考え方、階層論からみる近代日本社会の変化、教育機会の不平等、労働市場におけるキャリアを中心に講義する。後半では、家族とジェンダーに注目して、家族から見る格差・不平等構造について考察する。

- 第1回 階層論の基本的な考え方
- 第2回 産業化と階層構造、高度成長期と社会階層
- 第3回 教育機会の不平等
- 第4回 教育機会の不平等と制度の役割
- 第5回 日本の雇用慣行と労働市場
- 第6回 脱工業化と非正規雇用の増加
- 第7回 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第8回 結婚、離婚、再婚と子育て
- 第9回 子どもの貧困と虐待
- 第10回 社会的養護
- 第11回 親密な関係と暴力
- 第12回 老いの社会学

■テキスト

竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』弘文堂、2013年、978-4-335-50136-4

■参考文献

藤間公太『代替養育の社会学』晃洋書房、2017年、978-4-7710-2843-2

■課題（レポート・小テスト）提出

レポートと小テストをそれぞれ1回ずつ実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題（レポート・小テスト）による評価
- 授業の視聴状況

法哲学（2単位） 担当者：法学部教授 大屋 雄裕

2018年度収録 配信回数 全21回

■講義要綱

法哲学のうち、法概念論と呼ばれる分野を中心に講義する。具体的には、伝統的理論としての自然法論を踏まえたのち、法実証主義とそれに対抗する主張としての解釈理論について検討し、批判理論までの展開を確認する。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 法概念論の基本問題

〔第3～6回〕 自然法論の展開

〔第7～8回〕 法命令説

〔第9～12回〕 法実証主義

〔第13～15回〕 自然法論の復権

〔第16～17回〕 その後の法実証主義

〔第18～19回〕 解釈理論

〔第20～21回〕 批判理論

■テキスト

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）ISBN 978-4-641-12567-4

■参考文献

平野仁彦・亀本洋・服部高宏『法哲学』（有斐閣、2002年）

深田三徳・濱真一郎（編）『よくわかる法哲学・法思想〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2015年）

瀧川裕英（編）『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年）

井上達夫（編）『現代法哲学講義〔第2版〕』（信山社、2018年）

■課題（レポート・小テスト）提出

小テスト1回。所定のシステムで、4/29～5/13に行なう。

レポート1回。所定のシステムで、5/20に発表し、6/3締切とする。

■成績評価方法

ビデオ講義の履修状況に加え、小テスト1回・レポート1回の成績、科目試験の成績による総合判定とする。